

番号	20	名称	お茶の水スクエア A 館
----	----	----	--------------

指定日	平成 15 年 6 月 9 日	所在地	神田駿河台一丁目 6 番地
設計者	磯崎新アトリエ	竣工	昭和 62 年 (1987)



#### 歴史・文化的特徴

大正 14 年 (1925) 竣工。出版社・主婦の友社の社屋として建てられた。設計者は、山の上ホテルの設計にも携わったウィリアム・メレル・ヴォーリズ。

昭和 62 年(1987)、旧主婦の友社社屋は解体され、日本を代表するポストモダンの建築家・磯崎新氏のデザインにより、旧館を復原しながら高層棟を立ち上げた。

「第 1 回千代田区景観賞 ちよだ景観大賞 (平成 4 年度)」を受賞している。

平成 14 年 (2002) に日本大学へ売却。B 館・C 館は取り壊された。平成 16 年 (2004) に法科大学院が開設され、日本大学お茶の水キャンパスと改称された。

#### 意匠・構造の特徴

歴史的意匠を引用しつつ、現在のデザインと対照させたポストモダン建築の代表作の一つ。旧主婦の友社社屋は、構造的理由でそのままでは保存できず、ヴォーリズの原設計図面を元にテラコッタの装飾も含め、外観は往時のまま復原され、そのテクスチャーに近いインド砂岩の多用により低層部を構成。高層部は鈍い輝きを放つブルーのラスタータイルで対照させている。

同時に作られた室内楽専用ホール・日本大学カザルスホールへの入口まわりは、コンサート空間への導入部としてヒューマンで繊細なスケール感覚である。

#### 周辺景観との関係

周辺に日本大学の駿河台キャンパスの各校舎 (医学・薬学・歯学・理工学) と付属病院が立地し、正面には高層ビルである明治大学リバティタワー (駿河台校舎) が聳える文教地区になっている。

多くの学生の記憶に残る駿河台の坂道の以前の面影を残す数少ない建物である。